

清水小学校 全体研修資料



日時：令和2年4月16日(木)

場所：会議室

1. 研究主題

一人一人が考え、伝え合い、認め合う道徳の授業づくり
～書く・話す活動の工夫を通して、児童の変容を目指す～

2. 主題設定の理由

(1) 今日の課題から

「特別の教科 道徳」（以下、「道徳科」とする）が、平成30年度から全面実施となった。今回の改正では、道徳教育を通じて、現実の困難な問題に主体的に対処することができる実効性のある力の育成を強く求められている。「発達の段階に応じ、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の児童が自分自身の問題と捉え、向き合う『考える道徳』『議論する道徳』へと転換を図るものである。」と学習指導要領に明記されているように、「考え、議論する」ことを通して児童が自己の生き方についての考えを深められる道徳科の授業を展開する必要があることが分かる。

また、平成30年度苫小牧市道徳教育アクションプラン（案）を見てみると、『苫小牧市の子どもたちに「よりよく生きるための基盤となる道徳性」を養う』であり学校においては、「児童が「考え、議論する」道徳の時間の充実の促進→研修講座及びLITによる授業公開への参加を通じた授業改善の促進」、「道徳教育カリキュラムの充実→「こころの授業」及び教科書活用を位置付けたカリキュラムを確実に実施し、検証、改善につなげる体制づくり」と打ち出されている。

以上の点から、これまでの「道徳の時間」の授業を改めて見直し、どのような授業に改善すべきなのかについて、研究する必要があると考えた。

(2) 学校教育目標の具体化から

本校では、「未来を創造する清水の子の育成」を目指し、「学びを広げる子」「思いやりあふれる子」「たくましさみなぎる子」の3つの児童像を掲げている。

道徳科の学習においては、中でも「思いやりあふれる子」という点が深く関わる。道徳科では、児童が道徳的価値に関わる考え方や感じ方を交流し合うことで、様々な考え方にふれ、考えを深める学習を展開することができる。道徳科の特質から、児童一人一人がねらいに含まれる一定の道徳的価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、内面的資質としての道徳性を主体的に養っていくことに適した教科である。

(3) 児童の実態から

昨年度は、書く活動や話し合いを工夫することで、自分の問題としてとらえ、それを多面的、多角的に考えることを通して、自己を見つめ自らの道徳的な成長を実感できる道徳科の授業を充実させたことで、児童の変容が見られてきた。今年度は、さらに主題に迫る研修を進めていきたい。

3. 研究の全体構造図

【学校教育目標】

「未来を創造する清水の子の育成」
学びを広げる子 思いやりあふれる子 たくましさみなぎる子

【研究主題】

一人一人が考え、伝え合い、認め合う道徳の授業づくり
～書く・話す活動の工夫を通して、児童の変容を目指す～

【目指す子ども像】

○自分の考えが「伝わった」喜びを感じ、相手の考えに「なるほど」と感心できる子

【研究仮説】

書く・話す活動を工夫し、日常的な授業改善をすることによって、一人一人が考え、伝え合うことができ、お互いを認め合える児童が育つだろう。

【今年度の重点】

- ◎「善悪の判断、自律、自由と責任」A-1
- ◎「友情、信頼」B-9・10
- ◎「よりよい学校生活、集団生活の充実」C-14・15・16

研究の内容① 平成30年度

- ・「書く活動」を取り入れた時の学習効果
- ・児童向けの「道徳の学習オリエンテーション」の実施
- ・児童に対してアンケートや振り返り
- ・評価の在り方の研修

研究の内容② 平成31年度

- ・「書く活動」におけるワークシート活用※
- ◎意味を持った「話す活動」の研究（別資料：トークトレーニング※）
- ・基本的な指導過程※の実践
- ・評価の視点や方法について
- ・別葉の日常的活用※

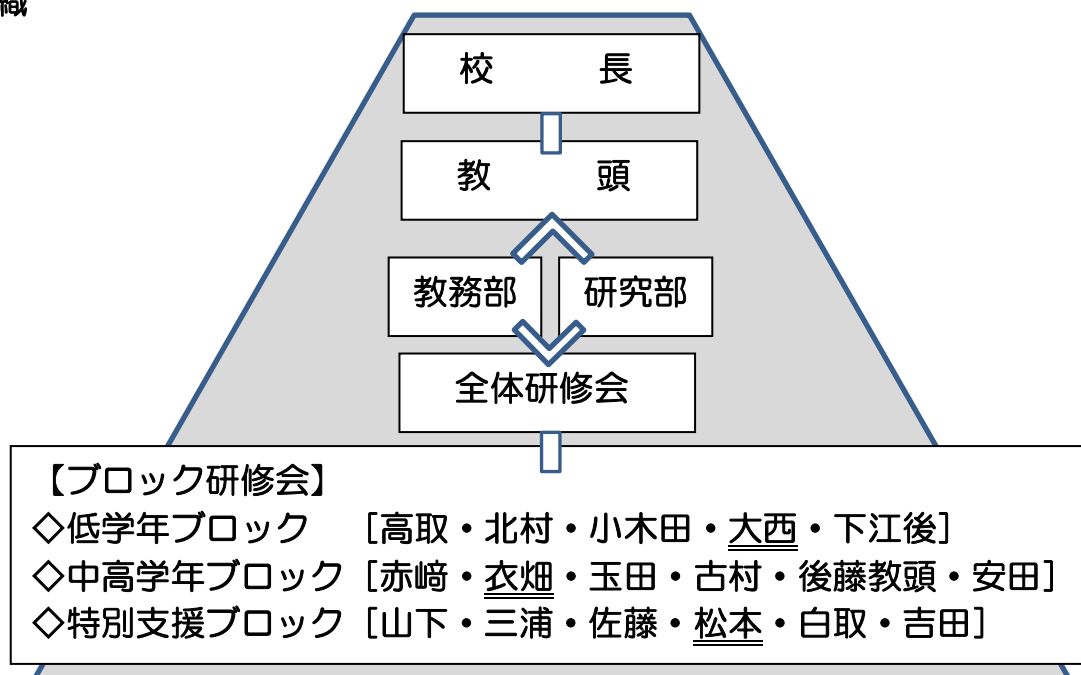
研究の内容 令和2年度

- ・全体計画、年間指導計画、別葉、研究内容の見直し
- ・成果と課題、研究のまとめ
- ・実践の充実と研究の検証
- ・公開研究会の実施
- ・清水スタンダードの見える化

◆研究内容を実践するための土台

- ・清水スタンダードの徹底←極めましょう
- ◎学び合う授業づくりができる学級経営
- ・苫小牧っ子学力UP！ハンドブックを活用した授業改善
- ・家庭学習習慣の定着（全校児童への学年時間調査→年2回実施、達成率85%を目標）
- ・校内掲示づくり（家庭学習ノートコーナー→児童への意欲付け、保護者への啓発）

4. 研究組織



○全体研修

研究部や教務部と連携を図って立案したものを、全体研修においてスタンダード化を目指す。また、ブロックまたは個人で授業研究・資料に基づく研修や実践等を行ったものを通して、研究仮説や内容の整合性や積み上げを共通認識し、専門性と資質の向上に努める場とする。

○ブロック研修

研修の基盤をブロック研修とし、研究主題に基づき研究を深め、全校的な立場で推進する。必要に応じて、学年研修を行う。

5. ブロックにおける研究の実践

ブロック研修を中心に、実践交流や授業実践を行っていくものとする。各ブロックの研修については、各ブロックのブロック長を中心に、研究部担当者に随時確認しながら研修を行っていく。記録者は、ブロック内での話し合いについて全体で共有するために記録をとる。担当者は適宜、「研究通信」を配信していく。

校内研究授業及び、各ブロックの研究授業について参観者は、「授業観察シート」(P9)に該当項目を記入してブロックの研究部担当者に渡す。メモ書きで構わない。「研究通信」で知らせていく。

今年度は、1学期中に全ブロックで2回公開授業を行う。内容項目は、今年度の重点が望ましい。時間的に指導案検討は難しいため、普段の道德の授業を公開する。参観者は、見たい or 見られる部分だけでもという押さえで。参観者は、授業観察シートに記入し、後日全体研修で交流する。

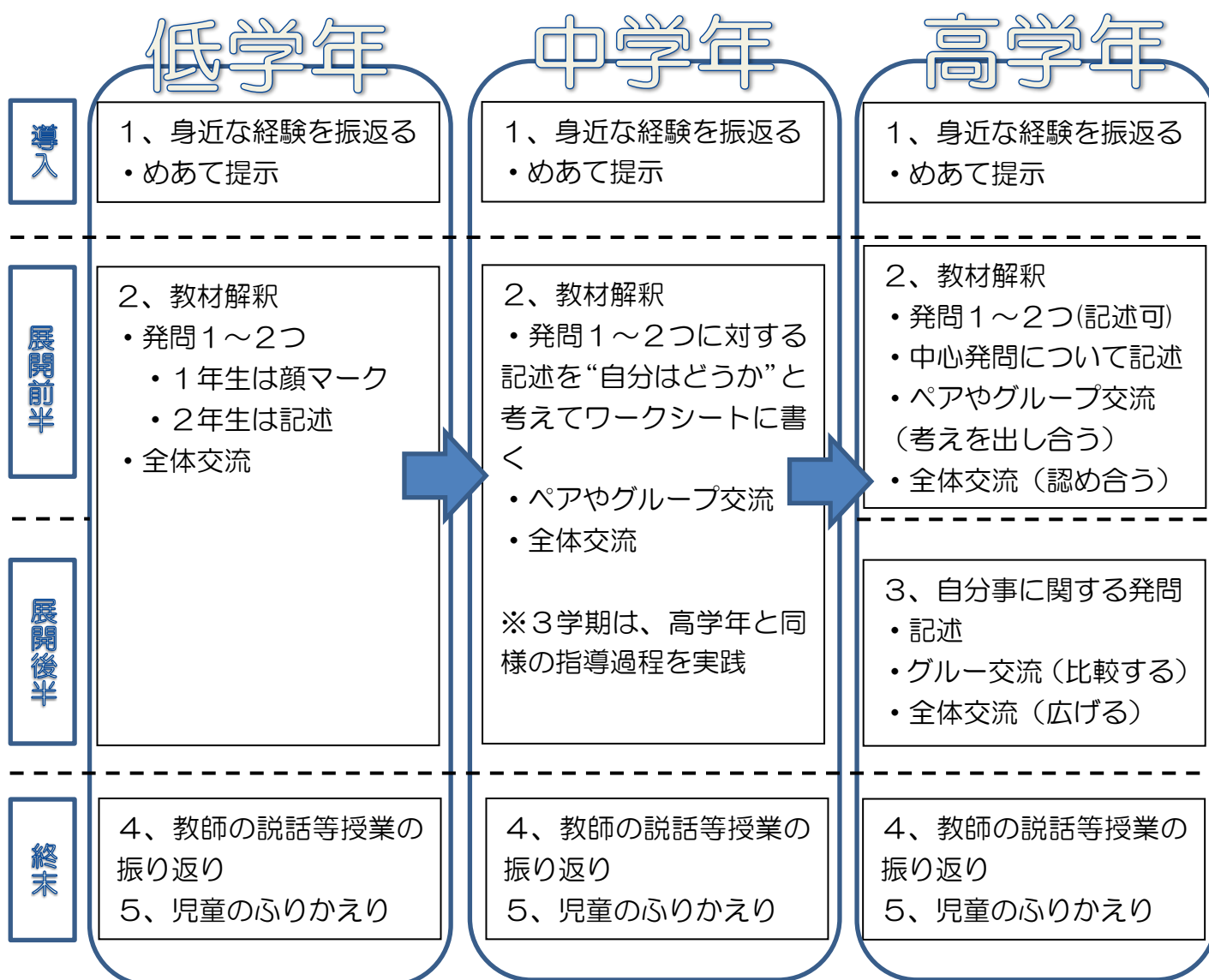
6. 研究の柱

○自分の考えを受け入れてもらえたり、相手の考えに感心したりする授業の構築がなされているか。(書く活動に関して)(話す活動に関して)

7. 別葉の活用について

先生方一人一人に配付し、校長室にも拡大版を掲示。全校で状況を確認。朱書きで変更点を記入。昨年度のまとめより、『担任だけ』で子どもを見ていく形から、誰でも子どもへアプローチしているようにするため。

8. 基本的な指導過程



9. 「トークトレーニング」を、どの教室でも

☆研究の内容②「◎意味を持った「話す活動」の研究(別資料: トークトレーニング※)」

☆研究内容を実践するための土台「◎学び合う授業づくりができる学級経営」 → リンク!

○トークトレーニングとは

“「話す力」「聞く力」「話し合う力」は、1日5分で楽しくトレーニングできる“というもの。

(引用「トークトレーニング60」溝越勇太著、参考「菊池省三の話し合い指導術」菊池省三著)

○なぜ有効か

- ・ 人前で話すことが苦手 → 「間違えたくない」「自信がない」「笑われたらどうしよう」不安が大
- ・ 話すことへの抵抗感をなくす、あたたかく聞き合えるクラスの間人関係をつくることが大切
- ・ 互いに学び合うための基礎 = 「話す力」などを育むためのトレーニング
- ・ 「主体的・対話的で深い学び」は、自分の言葉でいきいきと語り合うクラスでなければ難しい
- ・ 授業のユニバーサルデザイン(UD)の視点から、全員が楽しく「わかる・できる」授業を
- ・ 下支えするのは学級の雰囲気、「話す力」などがついていなければ授業UDを実現は難しい
- ・ どの子も「話したく」「聞きたく」「話し合いたく」なるようにする
- ・ 苦手だと思い込んでいる子に、人前で話せた経験をたくさん蓄積していく

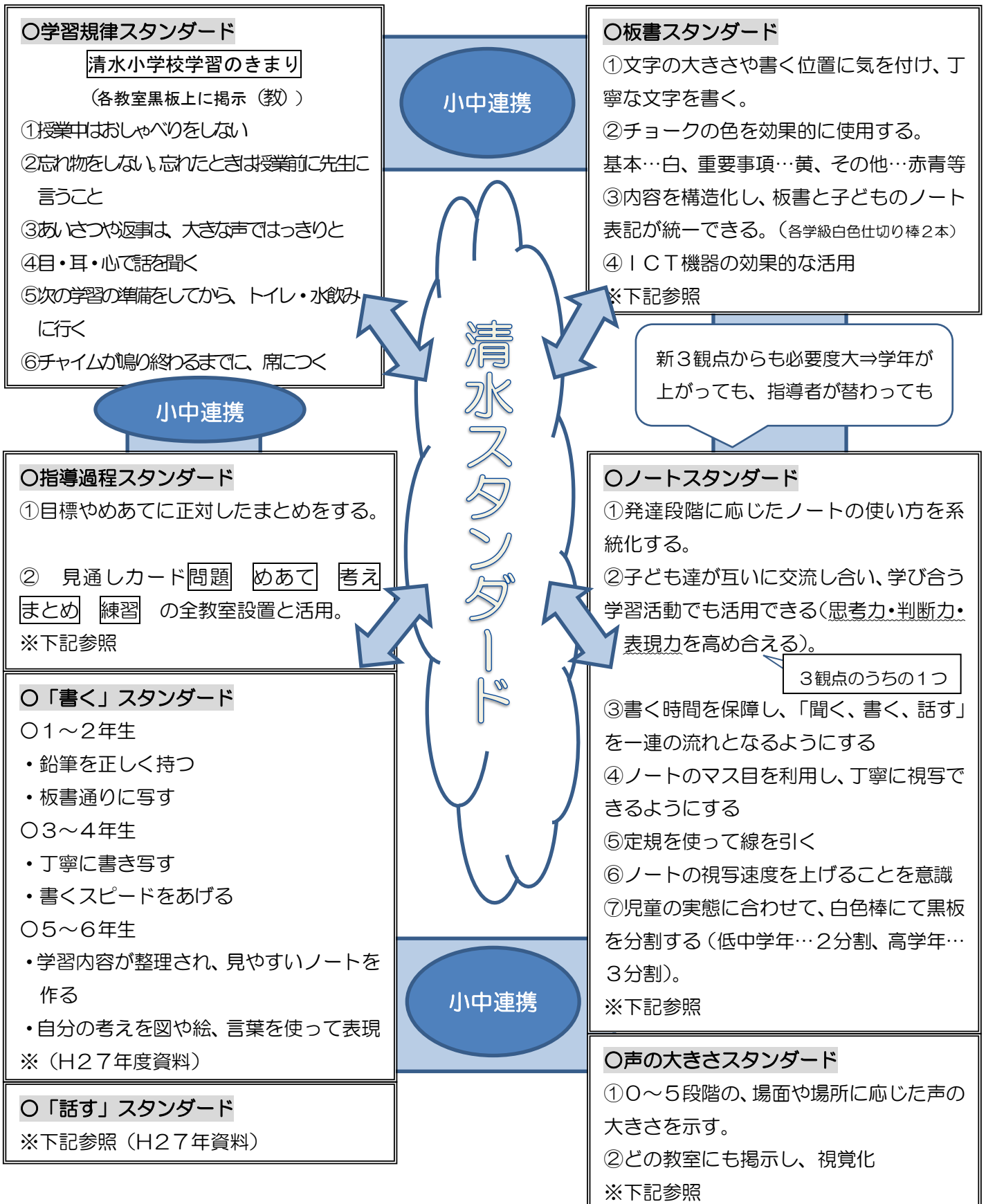
○取り組む際の約束

- ①目・耳・心で聴く(←スタンダードだ!) ②ぴーん(挙手) ③「イエーイ」(拍手)

10. 清水スタンダード

全校統一した取組を徹底していきます。各スタンダードは独立したものではなく、関連性を持ちながら実践していくことになります。すべての教科で行っていききたいと思います。

算数科で研究してきたH29年度までの清水小の研究を掘り起こし、「スタンダード」に明記することとしました。



清水スタンダードのノートのかきかた

この2行は...
 ・はじめの時間には単元名が書ける
 ・前学年の復習(公式など)スペース

赤ペン(赤鉛筆)で、上下のみ線を引く。文章が途中で終わっても右はしまで引く。

鉛筆で、上下のみ線を引く。文章が途中で終わっても右はしまで引く。

筆算や確かめ等が必要な単元では、右はしに必要分だけ線を引き、計算スペースを作る。特に高学年。

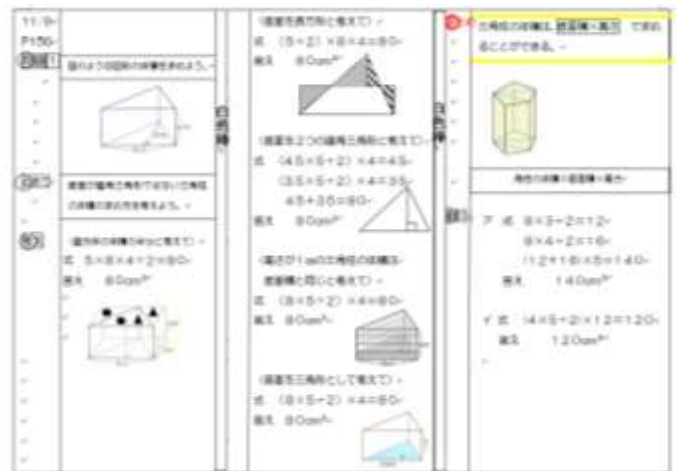
日付や問題番号を書くため、2マス分とって縦線を引く。

- ・毎回見開き1ページ使用
- ・行間を広く取る
- ・間違いは消さずに赤で直す
- ・気付きやメモを書き込む
- ・友達のをえを書く

④ 清水スタンダードの指導過程

指導過程	ノート指導	学習活動・ねらい
つかむ	①問題確認 ②めあて把握	・本時の学習内容を把握する。 ・前時の学習内容を想起し、違いを確認したり見通しを持つたりする。
考える	③個人思考 ④集団での解決や交流	・既習事項から自力解決してみる(図、表、式、言葉等)。 ・集団で交流し、自分の考えを深めたり、友達の考えのよさに気付いたりする。
まとめる	⑤まとめ	・めあてと正対するまとめを行う。
深める	⑥練習問題	・確認問題や練習問題、発展問題などに取り組み、習熟を図る。

授業の終末において、確認問題や練習問題を位置づけることで、一単位時間における学びを確かなものにし、習熟を図っていかると考えます。



研究内容2

～問題解決的な学習段階における言語活動～

算数科に言語活動を取り入れることは...

言語を使って考え、判断し、表現していく力を伸ばすことを目的とする。

きほんの話し方 (3年生・4年生)

「はい、わたしの考えは、○○です。」または、「はい、○○です。わけは、...だからです。」

「まず、～です。」
「次に、～です。」
「だから、～です。」

きほんのはなしかた (1年生・2年生)

「はい、○○です。」
へんじをしつかりしましょう!
「まず、～です。」
「つぎに、～です。」
「だから、～です。」

基本の話し方 (5年生・6年生)

「○○の求め方について説明します。」
「まず、～と考えました。」
「次に、～します。」
「それから、～します。」
「だから、答えは～です。」
「これで説明を終わります。」
「わからない人はいますか。」
「質問は、ありませんか。」

11. 研修計画

令和2年度

研修計画一覧（案）

回	月	日	曜日	形態	研修内容
①	4	16	木	全体研修	<ul style="list-style-type: none"> 研究概要について共通理解、評価のスタンダード化 家庭学習向上週間①及び児童アンケート①について
②	5	13	水	全体研修	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な指導過程の確認のための 校内授業研①（研究部）の事後研
③	5	21	木	ブロック研修	<ul style="list-style-type: none"> ①②の全体研修を受け授業実践交流&ワークシート交流 各ブロックの研究内容の検討 ブロック長、記録者、②③校内授業者選出
④	6	17	水	全体研修	<ul style="list-style-type: none"> 校内授業研②（低・中高・特）←6月第2週で随時公開 三つの授業についての事後研
⑤	7	15	水	全体研修	<ul style="list-style-type: none"> 校内授業研③（低・中高・特）←7月第2週で随時公開 三つの授業についての事後研
⑥	8	26	水	ブロック研修	<ul style="list-style-type: none"> 公開授業研に向けて内容項目の決定 各学年の指導の観点を確認 公開授業研に向けての指導案検討①
⑦	9	3	木	ブロック研修	<ul style="list-style-type: none"> 公開授業研に向けての指導案検討② 各ブロックの研究内容の実践交流、検討
⑧	9	9	水	ブロック研修	<ul style="list-style-type: none"> 公開授業研に向けての指導案検討③
⑨	9	24	木	全体研修	<ul style="list-style-type: none"> 公開授業研に向けて
⑩	10	21	水	ブロック研修	<ul style="list-style-type: none"> 公開授業研に向けての指導案検討④
⑪	10	28	水	全体研修	<ul style="list-style-type: none"> 公開授業事後研
⑫	11	11	水	全体研修	<ul style="list-style-type: none"> 公開授業研まとめ 家庭学習向上週間②及び児童アンケート②について
⑬	11	25	水	ブロック研修	<ul style="list-style-type: none"> 公開授業研の反省 家庭学習向上週間②及び児童アンケート②集計
⑭	12	10	木	ブロック研修	<ul style="list-style-type: none"> アンケート結果の検証 今年度の取組の振り返りや検証、三カ年計画研修の反省
⑮	1	20	水	全体研修	<ul style="list-style-type: none"> 今年度の取組の振り返りや検証 三カ年計画研修の反省
⑯	2	17	水	全体研修	<ul style="list-style-type: none"> 三カ年計画研修の反省 次年度の方向性

※研修計画については、研究組織や内容により日程や研修内容を組み替える。

（実技研修、指導主事訪問(公開研)、プログラミング教育（教務と連携）など）